

なる

いう

(3) 方法

「対象語い」を対象とした文章の中からひろい出し、文脈の中で使われている意味にしたがって、次の基準で分類整理していくことにした。

なお、この基準は、大日本国語辞典(小学館)に採用されている意味をもとにしている。したがって、古語の意味用例も含んでいるので、現代の文章用例としては該当しない項目もあるが、一応全部の意味、用法をあげておくこととした。

する

1. (からだや心のある状態、また、ある外界の刺激などが) 起こる。起こったのが感じられる。
2. ある状態になる。ある状態である。
3. もう少しである作用が起ころうな状態になる。また、もう少しであることをしそうな状態になる。(「～うとする」,「～ようとする」の形で)
4. 時間がたつ。
5. ある動作や行為を行う。
6. (形容詞の連用形、助詞「に」,「と」などのあとにつけて) ある状態にならせる。
7. (形容詞の連用形、助詞「に」,「と」などのあとにつけて) ある状態だと見る。そう考える。感じる。
8. (5のうちとくに) あるものをつくる。
9. ある様子、状態を表す。(8の比喩)

ある

1. 人・動物の場合の存在。
2. 無生物、物事の存在。
3. この世に生きている。生き長らえる。生存す。
4. ある場所にとどまっている。また住む。暮らす。
5. ちょうどその場にいる。居合わせる。
6. あるものに所属して存在する。所有されている。所有している。
7. 目立つ状態で存在する。(はなやかに暮らす。)
8. 目立つ状態で存在する。(すぐれている。すぐれたところをもつ。)
9. (言葉が存在するの意から多く「～とある」の形で) 口に出す。文字に書かれている。「言う」,「書く」より間接的なので敬意がこもることが多い。
10. 「ある」が「口に出す」の意を失って形式的に用いられる場合。
11. (多く動作が付随している物事を表す名詞の下にきて) 物事が行われる。行われる。なされる。起こる。
12. (間に時があるの意から) 時間がたつ。経過する。
13. (指定の助動詞「なり」,「だ」の連用形「に」,「と」,「で」について) 指定の意を表す。
14. (種々の語について) そういう状態であることを表す。(間に係助詞がはいることが多い。)
15. (動詞の連用形、あるいはそれに助詞「て」,「つつ」を添えた形について) 動作、作用、状態の進行、継続や完了した作用の結果